

委員会発言



北九州 森川委員

ダイヤ改正について 日豊線に6Bワンマンが導入されたが、危惧してきた通り、モニター不具合が多発し現在も散発的に故障が発生している。朝夕の通勤時間帯では積み残しが出て、利用者から苦情が出ているが、会社は改善する気がない。筑豊線においても821系の故障や垣生く中間の単線化による遅れが常態化している。会社の営利優先・安全軽視が問われている。

組織拡大について、11月1日付けで小倉運転区の59才を拡大した。現状の職場環境を変えたいとの決意で加入してもらった。先月、歓迎会を開催したが、次の拡大に向け奮闘していきたい。
要員問題について 小倉運転区では、再雇用者が半数に達しているため、特休増と会社行事・コロナ関係により年休抑制が続いている。

また直方運輸センターでも特休消化が年度末までできるのか微妙な現状にある。特休が消化できないとなった場合の対応など交渉の強化をお願いしたい。春闘について 日本は20数年賃金が上がらない異常な国となっている。ようやく政府や財界も賃上げをい出した。JRはボーナスカットより若い社員が離職している。今春闘では業績も回復し、ベア・大幅賃上げが可能で絶好のチャンスであり本日も頑張つてほしい。職場で交渉を支えるため労働条件改善署名に全力を上げたい。



博多 久本委員

博多地区本部佐賀分会は、12月1日で国労加入した杉谷さんを入れて17名となった。職場では、退職・病気・育児休暇などにより乗務員が足りない。その為、特休を超過勤扱いで乗務するという事が行われている。特休は8時間以上乗務できないため、泊ま

り勤務を2つに分割して乗務させている。そのため超勤が3万5千円という人も出ている。しかし、年休は相変わらず取得できず、今年度は年休を流す人が多数出てくると思われる。3組合で現場長に申し入れを行うなどしてきた結果、2月には博多車掌区から3月には博多運転区から助勤が来ることになった。



長崎 上之濱委員

昨年西九州新幹線開通に伴い、車掌業務が廃止となり、現在JR九州エンジニアリング防災センター(ビル管理)に出向している。出向先は休憩室もなく仮眠すらとれない劣悪な労働条件・職場環境となっている。9月のダイヤ改正では労働環境が大きく変化

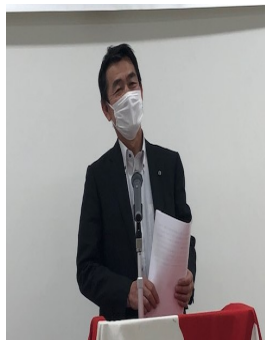
した。車掌の廃止や運輸センターの統廃合などで退職や出向、転勤が余儀なくされた。長崎では、直営駅は4駅で、あとは委託か無人駅となり利便性・サービスが低下している。要員削減のため、車載器の積み忘れや降ろし忘れ、番号間違いなど問題が多く発生するなど信号に係る取り扱いを軽視した施策となっている。また各職場での年休所得や特休の消化が困難となっている。会社は、年休は年間で5日やれば問題ないという考えである。各職場での消化率の実態調査をお願いしたい。

今年にはコロナで見送つていたレクを開催することにした。他労組にも呼びかけ拡大にむけ全力を上げていきたい。職場に労働運動を実現するために、安全問題や点検活動など国労らしい運動を継続し賛同する他労組の組合員にも示すことが大事だ。



博多 香田委員

毎回、教宣活動の大事さについて発言してきた。自分も覚悟をもって「若い力」「博多地区本部ニュース」など出している。教宣内容について、いろいろな意見が出されているが、自分が大事にしているのは「会社の考え方は絶対ではない、労働者の誇りを持つためにみんなで頑張らしよう」というスタンスで若い人たちの目線で書いていくつもりだ。年配者とのギャップもあるかも知れないが、そこは理解して欲しい。引き続き、職場での問題点や疑問があれば博多に送って欲しい。自分の得意な分野を活かして今後も頑張っていきたい。



鹿児島 黒木委員

香田君の発言を聞いて若いころを思い出した。議論をしながらやっていけばもつといい内容になると思う。若い力は勉強になるので頑張つてほしい。今こそ反合理化闘争と賃金闘争を強力にかつ大胆に取り組み時期に来ているのではないか。昨年9月のダイヤ改正・